

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	不発弾処理要員(以下、「EOD 要員」)の能力向上と学校及び住民への危険回避教育により、被害者の減少と不発弾処理の促進を図り、民生の安定と地域復興を支援する。
(2) 事業内容	ア 技術移転 (ア) 素養試験 リフレッシャー訓練時に筆記及び実技試験を実施した。 (イ) OJT 識別、各種不発弾に応じる処理要領と安全管理、SOP 及び基本動作の確行等について 28 回実施した。 (ウ) 講義 安全管理、火砲用信管の構造機能、新配置の州で発見される経験不十分な種類の不発弾の処理要領を主に、5 回実施した。 (ア) モニタリング 新たに配置されたチームを重点に対し 2 回実施した。 イ 不発弾処理 3,510 発を処理した。CBURR からの処理要求は 822 件であった。 ウ 危険回避教育 (ア) 専門家による教育は計画教育・機会教育により実施し、学校 31 回、住民 4 回の計 35 回行い、参加者は 4,129 名であった。 (イ) CBURR 要員等による教育は 1,183 回行い、参加者は 18,674 名であった。
(3) 達成された効果	ア 本報告期の特性(前提) (ア) 2012 年度事業の初動期 10 月 19 日から 12 月 31 日の短い期間を対象としており、予定している事業の実施状況はその初動期にある。 (イ) 新しい体制での事業開始 ・ 3 個チーム及びチームメンバー 6 名の大幅異動 ・ CBURR 要員 6 名の新規採用 ・ 4 個チームが新たな州で活動 イ 技術移転 (ア) 裨益者は事業編成内の EOD 要員 20 名である。 (イ) 素養試験結果は、チームリーダー(筆記平均 78,2 点 / 実技平均 64,3 点)、チームメンバー(62,5 点 / 61,5 点)であり、平均期待値の 60 点に達している。しかしながら、新配置のチーム要員や異動で配置となった要員の成績が劣る傾向にある。また、要となるチームリーダーの実技点が筆記試験に比して低い。このような点を今後の教育に際し考慮する。また、試験問題は見直して少しレベルを上げ、中間試験から新しい試験問題を使用する。

	(ウ) OJT、講義、モニタリングによる技術移転はほぼ予定通り進んでいるが、要員の知識・技能レベルを把握し初期の教育を開始した状況であり、事業途中の成果としてそれを取り上げ検討する段階にはない。しかしながら、本年度の目標である「SOP等の基本的事項の実践能力向上」を目指し、特に新配置のチーム要員等を重点として教育を実施する。なお、昨年度作成したEODガイドブックを活用中(不発弾処理も同様)である。 ウ 不発弾処理 (ア) 不発弾処理数は3,510発で、これは目標数である3630発の97%となる。CBURR要員6名が新規採用で草の根の通報ルートが確立されていない中、また4個チームが新たな州で活動していることを考慮すれば、全般として高く評価でき民生の安定に寄与している。 (イ) 不発弾処理の前提となるCBURR要員からの処理要請は822件で、これは目標数である1,307件の63%となる。特に、初めて事業として不発弾処理を行うとともに、CBURR要員を新規に採用したプーサット、コンポンチュナン両州における処理要請が少ない。両州をCBURR要員指導の重点とし、また、危険回避教育を優先的に行って通報ネットワークの確立を図る。 エ 危険回避教育 (ア) 専門家による教育35回・参加者4,129名は例年より増加しており、被害未然防止の効果が期待できる。ただし、教師の参加者数は目標1,468名に対し現在、128名にとどまっている。 (イ) CBURR要員等による教育は、1,183回・参加者18,674名で、目標の654回・13,068名を、回数で180%、参加者数で143%上回っている。CBURR要員にとって危険回避教育は、被害者を減少させるとともに、通報ネットワーク確立の重要な手段でもあることから、教育結果の大きな堆積は意味があり今後とも奨励していく。
(4) 今後の見通し	2012年度事業開始以降、カンボジアにおいてはシハヌーク前国王逝去やアセアン首脳会議等、政治的・社会的なうねりがあり、事業も影響を受け、また、新しい体制での事業であるがゆえに生みの苦しみを味わってきた。 このため、概ね計画通りに事業は進めることができたものの、成果不十分な内容が生じることにもなった。しかしながら今後は、円滑な事業の運営が期待でき、事業も本格化し深化し、CMAC隊員のスキルレベルも向上が期待できることから、計画している目標及び期待される効果の達成も可能と史料する。